

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年11月12日

【四半期会計期間】 第45期第2四半期(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)

【会社名】 テンアライド株式会社

【英訳名】 TEN ALLIED CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 飯 田 永 太

【本店の所在の場所】 東京都目黒区鷹番二丁目16番18号(Kビル)

【電話番号】 (03)5768-7490

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長 加 藤 慶 一 郎

【最寄りの連絡場所】 東京都目黒区鷹番二丁目16番18号(Kビル)

【電話番号】 (03)5768-7490

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長 加 藤 慶 一 郎

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第44期 第2四半期 連結累計期間	第45期 第2四半期 連結累計期間	第44期
会計期間		自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高	(千円)	7,589,564	7,442,813	15,308,432
経常利益又は経常損失()	(千円)	92,936	75,702	267,798
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失()	(千円)	21,990	147,782	126,168
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	13,505	135,910	152,786
純資産額	(千円)	7,476,412	7,479,393	7,615,715
総資産額	(千円)	10,806,809	10,421,293	10,834,772
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損失金額()	(円)	0.85	5.69	4.86
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	69.0	71.5	70.1
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	386,105	32,798	1,010,397
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	220,323	400,596	571,173
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	198,761	118,918	378,185
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	2,555,112	2,096,816	2,649,131

回次		第44期 第2四半期 連結会計期間	第45期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日
1株当たり四半期純損失金額()	(円)	1.38	6.32

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第44期の「潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額」及び第44期第2四半期連結累計期間の「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額」については潜在株式は存在しますが希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、第45期第2四半期連結累計期間の「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額」については1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、大幅な金融緩和や財政支出に加え、TPPへの参加表明といった各種成長戦略に伴い、為替における円安の進行や株価の上昇といった景気回復の基調が垣間見られつつあるも、安定的な状態ではなく、依然として先行きは不透明といえます。

また、個人消費に関しましても、一部で高価格帯の商品の需要が増加傾向にあるといわれますが、消費税率のアップ等による個人所得に対する先行きの不透明感などにより、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社グループにおきましては、堅実な店舗運営と着実な収益構造の確立を図ってまいりました。

店舗状況といたしましては、当第2四半期連結会計期間末における当社グループの店舗数は、「旬鮮酒場天狗」31店舗、「和食れすとらん天狗」（「旬鮮だいにんぐ天狗」「ステーキ大作戦」含む）48店舗、「テング酒場」44店舗の合計123店舗となっております（内フランチャイズ1店舗）。

もっとも、このような取り組みに際し、あくまで当社グループは愚直なまでにお客様への四つの誓い「良いものを安く、早く、清潔に、最高の雰囲気での実現に向け、当社グループ一丸となって邁進することを徹底しております。こうした観点から、従来から継続して取り組んでおります店舗営業に係る内部監査や衛生監査について、更に内容の充実に取り組み、理念の徹底を図っております。

以上のような取り組みの結果として、当第2四半期連結累計期間における連結売上高は、74億42百万円で前第2四半期連結累計期間比98.1%となっております。

他方、利益面につきましては、各種効率化施策を実施したものの、売上の減少と物価の上昇に伴う原価率の悪化、加えて猛暑と単価上昇による電気代の上昇等の経費の増加により、営業損失は73百万円（前年同期は営業利益86百万円）、経常損失75百万円（前年同期は経常利益92百万円）、四半期純損失1億47百万円（前年同期は四半期純利益21百万円）となっております。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて4億13百万円減少し、104億21百万円となりました。この主な要因といたしましては、設備投資に伴い、有形固定資産が17百万円、無形固定資産が39百万円、投資その他の資産が22百万円増加したものの、現金及び預金が5億52百万円減少していることによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べて2億77百万円減少し、29億41百万円となりました。その主な要因といたしましては、退職給付引当金が26百万円増加いたしましたが、買掛金が30百万円、1年内償還予定の社債及び社債が50百万円、未払法人税等が56百万円、その他流動負債が1億58百万円減少していることによるものであります。

また、純資産につきましては、前連結会計年度末に比べて1億36百万円減少し、74億79百万円となりました。その主な要因といたしましては、利益剰余金が1億47百万円減少していることによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ5億52百万円減少し、20億96百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況については下記の通りであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は、32百万円となりました。これは主に減価償却費3億40百万円によって得られた資金に対し、税金等調整前四半期純損失、棚卸資産の増加、その他の流動資産の増加、仕入債務の減少、未払消費税等の減少、その他の流動負債の減少による3億59百万円の支出によるものであります。前年同四半期連結累計期間において得られた資金は3億86百万円でした。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、4億円となりました。これは主に有形固定資産の取得及び無形固定資産の取得による支出3億88百万円によるものであります。使用した資金は前年同四半期連結累計期間に比べ、1億80百万円の増加であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、1億18百万円となりました。これは主に長期借入れによる5億円の収入に対し、長期借入金の返済、社債の償還、リース債務の返済による6億18百万円の支出によるものであります。使用した資金は前年同四半期連結累計期間に比べ、79百万円の減少であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は12百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 従業員数

当第2四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員数の著しい増減はありません。

(7) 生産、受注及び販売の実績

当第2四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績の著しい変動はありません。

(8) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画の著しい変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	84,712,800
計	84,712,800

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	26,579,527	26,579,527	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	26,579,527	26,579,527		

(注) 提出日現在発行数には、平成25年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年9月30日		26,579,527		5,257,201		1,320,000

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社永幸	東京都三鷹市井の頭五丁目26 - 12	4,242	15.96
飯田 永太	東京都武蔵野市	3,787	14.25
株式会社岡永	東京都中央区日本橋馬喰町一丁目7 - 3 岡永ビル	1,443	5.43
山内 薫	東京都三鷹市	1,089	4.09
飯田 愛太	東京都三鷹市	850	3.20
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7 - 1	778	2.92
サッポロビール株式会社	東京都渋谷区恵比寿四丁目20 - 1	729	2.74
飯田 博	東京都目黒区	380	1.43
飯田 健太	東京都杉並区	341	1.28
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8 - 11	186	0.70
計		13,830	52.03

(注) 上記のほか当社所有の自己株式617千株(2.32%)があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 617,400		株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 25,929,000	259,290	同上
単元未満株式	普通株式 33,127		同上
発行済株式総数	26,579,527		
総株主の議決権		259,290	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株(議決権の数20個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式51株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) テンアライド株式会社	東京都目黒区 鷹番二丁目16番18号 (Kビル)	617,400		617,400	2.32
計		617,400		617,400	2.32

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,749,131	2,196,816
売掛金	118,142	96,099
たな卸資産	¹ 151,277	¹ 200,723
その他	318,186	350,474
流動資産合計	3,336,738	2,844,113
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	9,369,244	9,282,233
減価償却累計額	7,372,073	7,255,869
建物及び構築物(純額)	1,997,170	2,026,363
機械及び装置	1,507,395	1,516,590
減価償却累計額	1,228,779	1,223,466
機械及び装置(純額)	278,615	293,123
工具、器具及び備品	2,112,881	2,124,399
減価償却累計額	1,817,211	1,855,493
工具、器具及び備品(純額)	295,669	268,905
土地	245,103	245,103
建設仮勘定	-	467
有形固定資産合計	2,816,559	2,833,963
無形固定資産	73,936	113,279
投資その他の資産		
敷金及び保証金	4,438,272	4,430,520
その他	170,665	200,816
貸倒引当金	1,400	1,400
投資その他の資産合計	4,607,538	4,629,936
固定資産合計	7,498,034	7,577,179
資産合計	10,834,772	10,421,293

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	381,813	350,921
1年内返済予定の長期借入金	136,895	² 201,000
1年内償還予定の社債	100,000	75,000
未払法人税等	106,250	50,126
資産除去債務	22,450	22,487
その他	889,824	731,603
流動負債合計	1,637,235	1,431,139
固定負債		
社債	25,000	-
長期借入金	515,338	² 438,750
退職給付引当金	924,016	951,012
その他	117,466	120,998
固定負債合計	1,581,821	1,510,760
負債合計	3,219,056	2,941,899
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,257,201	5,257,201
資本剰余金	1,320,293	1,320,293
利益剰余金	1,167,403	1,019,620
自己株式	234,037	234,081
株主資本合計	7,510,860	7,363,034
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,429	26,301
土地再評価差額金	65,208	65,208
その他の包括利益累計額合計	79,638	91,510
新株予約権	25,216	24,849
純資産合計	7,615,715	7,479,393
負債純資産合計	10,834,772	10,421,293

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	7,589,564	7,442,813
売上原価	2,046,076	2,020,472
売上総利益	5,543,487	5,422,340
販売費及び一般管理費		
人件費	2,776,746	2,786,020
退職給付費用	76,238	72,476
地代家賃	1,104,080	1,120,856
その他	1,499,640	1,516,693
販売費及び一般管理費合計	5,456,706	5,496,046
営業利益又は営業損失()	86,781	73,705
営業外収益		
受取利息	948	877
受取配当金	1,491	1,659
受取賃貸料	2,859	2,859
固定資産受贈益	8,298	2,738
受取補償金	-	4,073
その他	5,924	3,978
営業外収益合計	19,522	16,187
営業外費用		
支払利息	11,103	8,545
支払補償費	-	7,522
その他	2,264	2,116
営業外費用合計	13,367	18,184
経常利益又は経常損失()	92,936	75,702
特別利益		
新株予約権戻入益	748	367
特別利益合計	748	367
特別損失		
固定資産除却損	13,331	23,952
リニューアル諸費用	8,529	11,862
固定資産処分損	11,015	13,323
その他	4,602	404
特別損失合計	37,477	49,541
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	56,207	124,876
法人税、住民税及び事業税	34,641	23,033
法人税等調整額	424	127
法人税等合計	34,217	22,905
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	21,990	147,782
四半期純利益又は四半期純損失()	21,990	147,782

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	21,990	147,782
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,486	11,871
その他の包括利益合計	8,486	11,871
四半期包括利益	13,505	135,910
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,505	135,910

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	56,207	124,876
減価償却費	318,900	340,970
投資有価証券評価損益(は益)	4,042	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	33	-
退職給付引当金の増減額(は減少)	7,646	26,995
受取利息及び受取配当金	2,439	2,537
受取賃貸料	2,859	2,859
支払利息	11,103	8,545
有形固定資産除却損	13,331	24,287
売上債権の増減額(は増加)	24,946	22,043
たな卸資産の増減額(は増加)	12,201	49,445
その他の流動資産の増減額(は増加)	63,944	33,310
仕入債務の増減額(は減少)	49,844	30,892
未払消費税等の増減額(は減少)	15,831	30,420
その他の流動負債の増減額(は減少)	3,345	90,725
敷金及び保証金の増減額(は増加)	38,444	7,751
その他	3,018	17,099
小計	449,060	48,427
利息及び配当金の受取額	2,461	2,552
賃貸料の受取額	2,859	2,859
利息の支払額	10,039	8,611
法人税等の支払額	58,237	78,027
営業活動によるキャッシュ・フロー	386,105	32,798
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	200,486	323,282
無形固定資産の取得による支出	226	65,369
貸付金の回収による収入	215	193
長期前払費用の取得による支出	13,906	12,137
資産除去債務の履行による支出	5,919	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	220,323	400,596
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(は減少)	285,000	-
長期借入れによる収入	247,000	500,000
長期借入金の返済による支出	26,591	512,484
社債の償還による支出	50,000	50,000
リース債務の返済による支出	53,202	56,391
自己株式の取得による支出	30,967	43
財務活動によるキャッシュ・フロー	198,761	118,918
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	32,979	552,314
現金及び現金同等物の期首残高	2,588,091	2,649,131
現金及び現金同等物の四半期末残高	¹ 2,555,112	¹ 2,096,816

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
商品	47,289千円	46,340千円
半製品	102,391 "	152,150 "
貯蔵品	1,595 "	2,231 "

2 純資産額の維持に係る財務制限条項

借入金4億68百万円について下記の通り財務制限条項が付されております。また、確約内容に反した場合には、当該債務について期限の利益を喪失する可能性があります。

(確約内容)

各年度の決算期末における連結貸借対照表において、純資産の部の合計を平成25年度3月期の純資産合計の75%以上に維持すること。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金	2,655,112千円	2,196,816千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	100,000 "	100,000 "
現金及び現金同等物	2,555,112千円	2,096,816千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)及び
当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

当社は同種の外食産業及びその補完的事業を営んでおり、単一セグメントであるため、記載を省略してあります。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

当社グループは、デリバティブ取引(ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は除く)を利用していないため、該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()	85銭	5円69銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()(千円)	21,990	147,782
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()(千円)	21,990	147,782
普通株式の期中平均株式数(株)	25,982,331	25,962,124
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については潜在株式は存在しますが希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月12日

テンアライド株式会社
取締役会 御中

三 優 監 査 法 人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 遠藤今朝夫 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 船井宏昌 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているテンアライド株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、テンアライド株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。